

原田病院外来診察担当表 (平成30年4月1日～)

●診察時間:午前9時～12時 午後4時～6時 ●受付時間:午前8時30分～12時 午後15時30分～17時30分

☆当院では待ち時間短縮のため午前中の診察は予約制となっております☆

□一般内科外来 □糖尿病外来 □泌尿器科外来 □整形外科外来 □慢性腎臓病(CKD)外来 □在宅血液透析(HHD)外来

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前 外来	1診	山下(和)	山下(秀)	重本	西澤	小野	重本
	2診	佐々木	西澤	水入(腎臓内科)	水入(腎臓内科)	山下(秀)	山下(和)
	3診	藤井(血液内科)	大下	藤野	小野	大下	佐々木
	4診 DM	内藤(則)	小林(貴) (10:30-11:30特定健診含む)	内藤(則)	松口	松口	廣大医師
	5診	宮崎	原田(仁)(整形)	—	小林(貴)	松坂	(第1・3・5週目)(第2・4週目) 土井(俊)(整形) 原武
	6診 初診	藤野	松坂	宮崎	芦谷	原武	小林(知)
	7診	藤田	藤田	藤田	—	藤田	廣大医師
	8診	—	—	—	—	—	(第1・3・5週目) 原武
	放射線科	石根	石根、廣大	石根	石根、廣大	石根、廣大	廣大
午後 外来	1診	15:00～16:00(第4週目) 16:00～18:00 循環器 木原/原武	16:00～18:00 池田	15:00～18:00 碓井	16:00～18:00 原武	14:00～15:00/16:00～18:00 特定健診 松口/松原	16:00～18:00 芦谷
	2診	14:30～16:30(不定期) 呼吸器 濱田	14:00～16:00/16:00～18:00 呼吸器/一般内科 坂本	16:00～18:00 松原	14:00～16:00 PD 西澤	16:00～18:00 呼吸器 濱田	15:00～17:00 廣大医師
	3診	13:00～16:00 フットケア 松口	14:20～16:00 CKD 水入	15:00～18:00 血液内科 三原	14:00～16:00 CKD 水入	14:30～16:00 CKD 西澤	—
	4診	—	—	13:00～14:00 禁煙外来 内藤(則) 16:00～18:00(第2週目)/16:30～18:00 オーバーナイトHHD/HHD 西澤	—	—	—
	5診	15:00～18:00 整形外科 中島	15:30～17:30 整形外科 原田(仁)	16:00～18:00 佐々木	—	—	—
	7診	13:30～16:30 リウマチ・膠原病 河野	—	16:00～18:00(第2週目) オーバーナイトHHD 小野	—	—	—
		放射線科	石根	石根	石根	—	石根

※手術・救急・学会などにより担当医が予告なく変更になることがあります。

一陽会

原田病院 院長 重本 憲一郎

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号
TEL 082-923-5161 FAX 082-921-8035

一陽会クリニック 院長 碓井 公治

〒731-5133 広島市佐伯区旭園10番3号
TEL 082-924-0033 FAX 082-924-0037

デイケアあさひ 所長 畑 千恵

〒731-5133 広島市佐伯区旭園9番31号
TEL 082-943-8610 FAX 082-943-8600

イーストクリニック 院長 有田 美智子

〒732-0814 広島市南区段原南1丁目3番53号 広島イーストビル6F
TEL 082-506-0123 FAX 082-567-7115

横川クリニック 院長 内藤 隆之

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目7番19号 横川メディカルプラザ3F
TEL 082-231-0111 FAX 082-231-0155

クローバー訪問看護ステーション 所長 大泉 淳
クローバー在宅介護支援事業所 所長 平田 恵美

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号(原田病院内)
TEL 082-925-6222(訪問看護) 082-925-6221(在宅介護)
FAX 082-925-6223(共通)

ケアレジデンス楽々園 施設長 吉田 美幸
デイサービス楽々園 所長 西 幸子
クローバーヘルパーステーション 所長 甲斐 慎一郎

〒731-5136 広島市佐伯区楽々園3丁目14番3号
TEL 082-943-8686(ケアレジデンス楽々園)
082-943-8585(デイサービス楽々園)
082-943-7088(ヘルパーステーション) FAX 082-943-8588(共通)

あさひメディコ

グランホームあさひ 施設長 牛見 好希

〒731-5133 広島市佐伯区旭園9番31号
TEL 082-943-7773 FAX 082-943-8600

発行 一陽会広報委員会

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号
TEL 082-923-5161(代) FAX 082-921-8035
ホームページ <http://www.icy.or.jp> E-mail info@icy.or.jp (一陽会 広報室)
ご意見・ご質問があれば上記の一陽会広報室までご一報ください。

周辺地図



あとがき

今年も梅雨入りし雨に悩まされる日々が続いています。そんな中、原田病院脇の海老山公園に続く小路では今年も一株のアジサイがピンクや青色の花をつけ、私たちの目を楽しませてくれています。◆さまざまな色の花を咲かせるアジサイ。もともとの色はピンク色で、育った土壌が酸性だった場合、土中に含まれるアルミニウムが酸により根から吸収されやすいイオンになり、アジサイの中にあるアントシアニンと結合して青色に変化するそうです。同じ株内でも根から送られるイオンの量によりピンク・紫・青など様々な色に変わります。◆アジサイは、日本古来の品種の「額アジサイ」と「西洋アジサイ」の2種類に分けられます。額アジサイは中心に集まっている小さな蕾のような花の外側に葉っぱが変化し花びらのように見えるガクがついています。西洋アジサイは、西洋で品種改良されたものが大正時代に日本へ逆輸入され、手まり型のような、花が多くゴージャスな印象が特徴です。いずれも葉や蕾や根に青酸配糖体という毒素があるため口に入れるのは大変危険だそうです。◆雨の中、傘をさしてアジサイを眺めに出かけてみると、あまり考えたこともなかった“梅雨の風情”というものを感じることができるかもしれません。(N.U)

あさひ

一陽会広報誌

平成30年
夏号
vol.58



題名「ロックオン」

撮影：透析室 北森初男

一陽会 基本理念

- 1 愛情ある奉仕の心を以て地域医療・介護に貢献する。
 - 2 和衷協同して技術の向上と人格の形成に努める。
 - 3 誠心と創意工夫を以てその職責を全うする。
- 一陽会職員は、「愛・和・誠」を是訓として、日々の診療にあたっております。

患者の権利

- 1 患者は人としての尊厳を維持する権利を有する。
一陽会の職員は患者のプライバシーの保護に努めるとともに、人としての尊厳を重視する。
- 2 患者は納得できる医療を受ける権利を有する。
一陽会の職員は患者に必要な情報提供を行い、インフォームドコンセント(説明と同意)に努める。
- 3 患者は医療機関選択の自由の権利を有する。
患者にはいかなる治療段階においても他の医師等の意見をもとめる権利(セカンドオピニオン等)があり、一陽会はこれを支援する。

原田病院 基本方針

- 1 地域ニーズに応える地域密着型の病院をめざす。
すなわち、高齢化が進む今日、高齢者の急性期医療を担うという当院の役割を明確にする。その為に、病診・病病連携を密にし、紹介患者の受け入れ、及び回復後の逆紹介を励行する。
- 2 医療、介護、福祉の関連機関と協力して、在宅医療を支援・推進する。
また医療の質を高めることにより早期社会復帰、平均在院日数の短縮をはかり、急性期型病院を維持する。
- 3 腎疾患、糖尿病、透析を中心とした急性期医療を提供する。
特に透析医療では、当地区において中心的役割を果たすよう努力する。
- 4 患者中心の医療を目指す。
すなわち患者の権利、尊厳、利益、希望を尊重した医療を実現するため、相談窓口、検討機関を広く設け、積極的に実施する。

新院長ご紹介

横川クリニック

4月から原田病院前副院長 内藤隆之が横川クリニック院長に就任いたしました。



医療法人 一陽会
横川クリニック 院長
内藤 隆之

平成30年4月より横川クリニック院長に就任しました内藤 隆之です。私は、1996年に広島大学医学部を卒業し、原田病院、広島大学病院、呉医療センターそして県立広島病院で腎疾患の診療に携わってきました。

腎疾患治療とくに透析医療は様々な専門知識と多くの臨床経験が求められ、先輩医師の皆さま、多くの患者さん、スタッフの皆さまから沢山のお力添えとご助言をいただきながらこれまで続けて参ることができました。

当クリニックは2003年7月に開院し、その時に短期間ですが小生も週に一度診療をさせていただく機会を与えていただきました。当時は若輩者故にお役に立つことができませんでしたが、その時の経験は大変貴重な財産となり、またいつかここで勤務できることを秘かに心に擁ぎ過ぎて参りました。いろいろな状況が重なり、この度再び診療させていただく機会を賜り、皆さまに厚く御礼を申し上げます。

これまで経験した事を生かし、皆さまの体調維持に貢献できるよう努めて参ります。

そして少しでも心が穏やかに過ごしていただけるようスタッフ一同対応を心がけ、信頼にお応えできるよう取り組んで参りますので、よろしくお願い申し上げます。

新任医師ご紹介

4月より、新しく3名の医師が就任いたしました。



内科/腎臓内科 松坂貴太郎 医師

昭和大学 医学部(平成20年卒)、日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医、日本腎臓学会 認定専門医、日本透析医学会 透析専門医、臨床研修指導医

4月より原田病院で勤務しております松坂貴太郎と申します。

昭和大学横浜市北部病院で研修後、同病院と川崎幸病院で計10年間勤務し、主に腎疾患や透析療法を中心に診療を行ってまいりました。地元は府中・福山の方で、諸事情で広島へ戻ることになりましたが、広島の中でも透析、総合診療をされている有数の病院として原田病院への勤務を希望しました。スタッフがとても親切で色々教えて頂き、少しずつ慣れていくところです。

まだ住み始めて間もなく、関東関西で違うことも多いと思いますので、生活面、仕事面ともに皆さまに御指導頂ければ幸いです。日々精進して参る所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



内科/腎臓内科 松原 誠 医師

広島大学 医学部(平成25年卒)、日本内科学会 認定内科医

平成30年4月より原田病院へ着任いたしました松原誠と申します。広島大学卒業後、広島大学病院、土谷総合病院で主に腎疾患・透析療法に携わって参りました。

これから原田病院の一員として、地域の皆さまにとってよりよい医療を提供できるよう日々の診療に努めていく所存です。疾患の事はもちろん、患者さんの社会的な背景や価値観も大事にして診療にあたりたいと考えております。

御迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、先生方のご指導のもと日々成長していけるよう努力していきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



内科/糖尿病・代謝内科 松口 万結子 医師

久留米大学 医学部(平成25年卒)、日本内科学会 認定内科医

平成30年4月より原田病院で勤務しております松口万結子と申します。生まれて此の方、九州の福岡で過ごして参りましたが、4月より広島に来ることになりました。小倉記念病院、九州大学病院で初期研修終了後、糖尿病内科医として九州中央病院、製鉄記念八幡病院で勤務しておりました。原田病院に勤めさせていただき、温かく迎えていただき、本当に感謝しております。九州とは地域性においても少し違うところがあると思いますが、一日でも早く慣れ、原田病院の一員として、地域の皆さまのお役に立てるように努力して参りたいと思っております。まだまだ未熟で至らぬ点多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

近隣医療機関のご紹介

篠原医院 (西区井口)

「プライマリケア医として地域医療に貢献」今回は西区井口にありますが、篠原医院のご紹介です。

昭和37年11月、先代(父 篠原陽一)が広島赤十字病院勤務より此の地(井口3丁目)に内科小児科医院を開業しました。

小生は循環器内科が専門で平成6年4月より東広島市西条にある井野口病院循環器科として勤務していました。急性冠症候群にカテーテル治療、ペースメーカー植え込み術等行っていました。或る日等は患者急変により山陽道3往復したこともありましたが、苦にならず充実した日々を送っていました。父の加齢により単独での診療が困難となり平成13年4月より常勤退職し医院継承しています。内科開業医であるため内科全般の診療にあたっています。現在でも週3回、午後より山陽道を西条へ向け通っていますがカテーテルは触っていません。長女夫婦も医師であり将来は継承してくれる事を願っています。

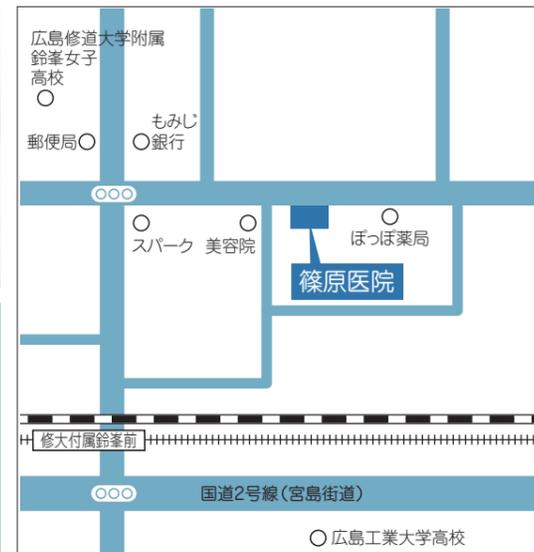
腎透析導入や精密検査を要する場合、緊急入院が必要な場合等、原田病院さんにはいつも御世話になっています。当地は西区末端で佐伯医療圏に近く、原田知理事長先生の兄上様(原田治氏)が庚午中学3年時の担任恩師であったことも親近感を感じます。先日お食事をして頂き、お元気で楽しかったです。

今後とも地域医療の為に御尽力、御協力を御願い致します。

篠原医院 院長 篠原 弘一



- 所在地 〒733-0842 広島市西区井口3丁目6-35
TEL:(082)278-0393 FAX:(082)279-6853
- 診療科目 内科・循環器科・消化器科(胃腸科)
- 診療時間 午前 9:00~12:30
午後 15:00~18:30
- 休診日 木曜日午後、土曜日午後、日曜日、祝日
- 駐車場 6台



在宅事業部トピックス Vol.1 クローバー訪問看護ステーション

在宅での看取りへの取組み



クローバー訪問看護ステーションは、原田病院の2階に事務所を構え、24時間体制で在宅療養を支えています。

平成11年3月の開設当初は26名であった利用者さまも現在125名となり、9名の看護師と2名の理学療法士で毎日、地域の皆さまに元氣と笑顔をお届けしています。

訪問看護とは、ご本人やご家族の意志・ライフスタイルを尊重し、生活の質が向上する様、予防的支援から看取りまでを支えます。特に超高齢化が進む中、在院日数の短縮化などにより、入院のベッドや老人施設もパンク状態となり、今後ますます在宅療養が推進されています。

中でも看取りに関しては、開設以来50件以上の実績があり、地域の訪問診療医の先生方と連携しながら多くの経験を積んでおります。「安らかな最期を住み慣れたご自宅で…」これは多くの方の願いになっており、それを支えるのは愛するご家族と共に、私達訪問看護を筆頭とする様々な介護保険サービスです。この願いを叶えられるよう、私たちはいつでも利用者さんやそのご家族の思いに寄り添い、最期まで希望を持って生活していけるよう支えていく事を大切にしています。一陽会の関連施設であるグランホームあさひやケアレジデンス楽々園への訪問も行っております。

私たちに出来る事がありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。



クローバー訪問看護ステーション
所長 大泉 淳



透析の穿刺ミス『グッと』 減らす取り組み

横川クリニック 透析室
技術主任 木谷博之

今回は、血液透析における穿刺ミスを減らす取り組みについてお話させていただきます。血液透析を行うためには1分間に200~300mlの血液を取り出し、体外循環を行います。そのためには開始する時、体外へ取り出す針と体内へ戻す針を2本穿刺する必要があります。血液透析の針は採血の針より何倍も太い針で、穿刺がスムーズに行われないと患者さんの精神的、身体的苦痛は増します。穿刺が2回で済めば良いのですが、血管が細い、あるいは血管が深い患者さんは穿刺が難しく、2回では済まないことがあります。血管は人の顔と同じように十人十色で、穿刺が容易な患者さん、穿刺が難しい患者さんと様々です。そこで近年、穿刺困難な患者さんを穿刺トラブルから救うために利用されることが増えてきたのがエコーガイド下穿刺です。

<エコーガイド下穿刺とは>

エコーって何？と思われる方は魚群探知機をイメージされると少しお分かりいただけるかもしれません。魚群探知機は、人の目には届かない深い層の魚をレーダーで探知し、画面に映し出すことができます。エコーガイド下穿刺とは、エコーを使って、外から見えない血管を描写し、血管の深さ、位置を確認しながら針が血管内に入るのを確認し穿刺する手技になります。医療の分野ではエコーを利用した技術が古くからあり、心臓、腹部、頸動脈など様々な部位の評価に利用されてきました。透析の分野では4~5年前から学会発表が散見されるようになり、徐々に話題となっています。今ではエコー装置がある透析施設では積極的にエコーガイド下穿刺が行われるようになってきています。(図1)



図1：エコー装置

<通常の穿刺との違いやメリット>

通常の穿刺は、血管走行の見た目、触った感覚などで血管の位置関係や深さなどをイメージするため、感覚と経験に頼らざるを得ません。表面に浮き出た血管であればイメージしやすいのですが、深い位置にある血管などは、どれだけ深い場所に血管が走行しているかイメージし難く、穿刺ミスが多くなりがちです。エコーガイド下穿刺では、深い血管やわかりにくい分岐をする血管でも深さや位置関係を観察できるので、穿刺ミスは少なくなり、患者さんの苦痛は軽減します。一昔前は穿刺困難な患者さんへ経験が豊かなスタッフが交代で穿刺し、やっと穿刺できたという光景がありました。しかし、エコーガイド下穿刺が導入されてからは、あらかじめベッドサイドにエコー装置が準備され、スムーズに透析が開始できるようになりました。(図2、図3)



図2：エコーガイド下穿刺

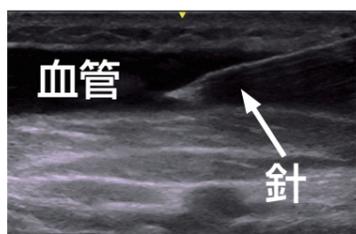


図3：血管内を進む針の画像

<エコーガイド下穿刺の訓練>

エコーガイド下穿刺は透析スタッフなら慣れれば誰でもできるようになります。片側でエコーの探触子を、もう片側で針を持って穿刺し、画面を確認しながら針を進めるため、ある程度慣れる期間を設ける必要があります。技術習得のために模擬血管でエコーガイド下穿刺の訓練を行うと効率よく上手くなります。当クリニックや一陽会の様々な施設でも勉強会や研修を開催し、エコーガイド下穿刺ができるスタッフがさらに増えるよう現在も継続して育成しています。(図4)



図4：研修風景

一陽会では、このような患者さんのお役に立てる医療技術を積極的に取り入れ、精神的、身体的苦痛を軽減し、よりよい透析生活を送っていただけるよう日々研鑽してまいります。



第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会

日時：2018年2月22日(木)~23日(金)
会場：パシフィコ横浜

2月22日(木)、23日(金)横浜で開催された 第33回 日本静脈経腸栄養学会学術集会に、原田病院から1演題の研究発表をおこないました。

嚥下サポートチームの取り組みと効果の検討

○難波江経史、水野和子、山崎晃子、石田了久、小竹秀子、水入苑生、重本憲一郎

【目的】

当院では嚥下障害患者への対応を充実させるため、H28年度より、NSTの下部組織として嚥下サポートチーム(SST)を立ち上げ、嚥下障害患者の早期発見・早期介入を目標とし取り組んできた。今回SSTの取り組みと効果について検討した。

【方法】

誤嚥性肺炎の診断にて介入した患者計103名を対象とし、SST立ち上げ前のH27年4~12月に介入した群(A群)と、SST立ち上げ後のH28年4~12月に介入した群(B群)の2群に分け、後方視的に比較検討した。評価項目として、年齢、BMI、藤島グレード、STリハ介入までの日数、在院日数、入院前同環境への復帰率(復帰率)、食事摂取率、Alb値について比較検討した。介入中の死亡例や介入が100日を超えた症例は除外した。

【結果】

A群：合計43名、男性30名、女性13名、平均年齢80.1±8.28歳、B群：合計60名、男性36名、女性24名、平均年齢82.2±12.0歳であった。STリハ介入までの日数はA群5.72±7.27日、B群2.38±3.19日(P<0.01)、在院日数はA群36.7±22.5日、B群27.3±14.7日(P<0.05)と有意差を認めた。復帰率はA群51.2%、B群68.3%であった。その他の項目について両群間に有意差は認めなかった。

【考察及び結論】

仲川らは、摂食嚥下チームなどと連携したNST活動の成果として在院日数の短縮を挙げているが、当院SSTにおいても在院日数の短縮が確認され、復帰率は約17%の向上を認めた。これは早期介入により、経口摂取開始の検討、嚥下機能評価に基づいた退院先の検討が行えたことが要因であると考えられた。当院SSTの取り組みは有効であり、今後もNSTと協働し嚥下障害患者の早期発見・早期介入に努めていきたい。

②SST活動の効果について

【対象】
誤嚥性肺炎の診断にて介入した103名
・H27年4月~12月介入群：A群43名
・H28年4月~12月介入群：B群60名

結果1

項目	A群	B群	P
年齢	80.1±8.28	82.2±12.0	n.s.
ST介入までの日数	5.72±7.27	2.38±3.19	0.0035**
在院日数	36.7±22.5	27.3±14.7	0.0496*
入院時の藤島グレード	4.84±2.41	5.86±1.87	n.s.
入院時BMI(kg/m ²)	19.7±3.43	20.0±4.12	n.s.
入院時食事摂取率(%)	24.7±35.7	34.9±33.6	n.s.
退院時食事摂取率(%)	48.6±43.3	58.7±34.5	n.s.
入院時Alb値(g/dl)	3.14±0.88	3.20±0.57	n.s.
退院時Alb値(g/dl)	2.79±0.49	2.96±0.59	n.s.

Mann-WhitneyのU検定 *P<0.05, **P<0.01, n.s.:有意差なし

結果2

項目	A群	B群	P
復帰率(%)	51.2	68.3	n.s.

χ²検定 *P<0.05, **P<0.01, n.s.:有意差なし

考察・まとめ



連携病院のご紹介 Vol.4 ～地域連携室より～

地域連携室 課長 佐々木 章

このコーナーは、本院が医療連携を結んでいる病院の、主に連携担当者としてご活躍されているスタッフにスポットを当ててご紹介させて頂くコーナーです。

第4回目は、医療法人朋和会 西広島リハビリテーション病院の地域連携室をご紹介します。本日は、入院相談窓口のお二人、鈴木看護副部長と岡地域連携部副部長にお話を伺いました。

○本日はよろしくお願いします！

(岡副部長・鈴木副部長)こちらこそよろしくお願いします。

○回復期リハビリテーションの専門病院として、西広島リハビリテーション病院へは、本院からも多くの患者さんをご紹介させて頂いております。「しっかりリハビリしてもらった」との報告を患者さんから頂いておりとても感謝しています。

(岡副部長)「こちらこそありがとうございます。本院のリハビリは2010年の4月から365日体制となり、今では1日平均8.6単位(1単位:20分)程実施しています。(2017年度実績)」

○現在リハビリスタッフは何名いらっしゃるのでしょうか？

(岡副部長)「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等、約130名の療法士が在籍しています。」

○入院後のリハビリについて教えて頂けますか？

(岡副部長)「入院初日にさまざまな評価と予後予測を行い、本人家族としっかり目標を共有したうえでリハビリを行ってまいります。リハビリは医師の指示・リーダーシップのもと多職種のチームで進め、常にPDCAを回していくシステムになっています。またリハ専門医が4名在籍し、磁気刺激治療(TMS)やHonda歩行アシストなど、新しいリハビリ技術の導入や企業との共同研究にも積極的に取り組んでいます。」

(鈴木副部長)「独自の取り組みとして、ご自宅へ退院された患者さんを対象に生活状況等の確認のためアンケート調査を実施しています。結果は職員へフィードバックし、入院される患者さんやご家族への支援に役立てています。」

○今後に向けて一言お願いします！

(鈴木副部長)「患者さんやご家族に安心して入院頂くためにも、事前に患者さんを取り巻く環境や家族背景等をしっかり確認し、患者さんが望む生活に少しでも近づくことが出来るよう頑張りたいと思います！」

(岡副部長)「地域の方々への情報発信や近隣施設との連携を図り、なるべく早期に入院がお受け出来るよう今後も頑張ります！」

○お二人とも本日はお忙しい中ありがとうございました！これからも引き続きよろしくお願いします。



医療法人社団 朋和会
西広島リハビリテーション病院
広島市佐伯区三宅6-265



地域連携室、医療相談室の皆さん
いつも親切にしてくださり
ありがとうございます！

コラム

いきいきさん

第42回 デイケアあさひ 反木 順恵



充実した在宅生活を応援します！

平成23年に入職し、原田病院の病棟・外来を経てデイサービスからデイケアあさひの看護師として勤務させて頂いております。

業務内容は、利用者さんの健康管理、創傷処置などの看護業務以外に、利用者さんの送迎、個別リハビリ、入浴介助、レクリエーションの企画などの業務も理学療法士や介護スタッフと連携を取りながら行っています。

趣味の音楽を活かしてデイサービス時代には、カラオケ教室を開いていました。デイケアでも歌いながら、身体を動かすリズム体操などを実施していきたいと考えています。

これからも利用者の皆さまの充実した在宅生活を応援するリハビリ施設であるために、ご意見やご要望に耳を傾け、利用しやすい雰囲気作りに努めたいと思います。



健康レシピ

キャベツのレモン醤油和え



エネルギー 11Kcal / たんぱく質 0.5g / 塩分 0.2g

《材料(4人分)》

キャベツ…………… 140g(大3枚)
人参…………… 20g(中1/10本)
レモン果汁…………… 12g(小さじ2)
醤油…………… 6g(小さじ1)



《作り方》

- ①キャベツは短冊切りにし、人参は千切りにする。
- ②キャベツと人参は茹でて、水気をよく絞っておく。
- ③ ②と調味料を混ぜる

〈ポイント〉

一般的な和え物で使用される醤油の量は一人前6g程度(小さじ1)で食塩相当量1.0gです。今回のようにレモン果汁と醤油を混ぜた味付けの場合、醤油のみの味付けに比べ、食塩相当量を0.8g減らすことができます。塩分摂取を控えることで、様々な疾患の予防に繋がります。今回、ご自身の塩分の摂り方について振り返ってみるのはいかがでしょうか。

管理栄養士 行森 貴子

医療安全について

皆さんは、料理をする時に砂糖と塩を間違えたことはありませんか？ また、街中で知り合いと思って声をかけたら別人だった、という経験はありませんか？

なぜ、こんなことが起こるのでしょうか？ 人間は間違える生き物だからです。これを医療の現場に置き換えた場合どうでしょうか？

原田病院では「機械は故障し、人はミスを犯す」を前提とし、それを誘発しない環境や、患者さんの障害に発展しない体制を整える目的で医療安全管理部門を置き、患者さん及び職員の安全を守るため様々な取り組みを行っています。その取り組みの一部をご紹介します。

- ・業務中に職員が、ヒヤリ・ハットした経験を収集・分析し、同様のことが起こらないようにする取り組みを行っています。
- ・全職員を対象に医療の安全をテーマに研修を行っています。
- ・患者さんと職員の安全を守るための委員会で、マニュアルの作成・訂正を行っています。

医療の安全を守るためには、職員の努力だけでは限界があり、どうしても患者さんの協力が必要です。その一つとして、職員が患者さんを確認するために名前を名乗っていただいております。皆さまのご協力を宜しくお願いします。

医療安全管理者 朝日 賢治

